

請 願 ・ 陳 情 文 書 表

(陳 情)
陳情第 6 号

高齢者の肺炎球菌ワクチン接種の助成に関する陳情（不採択）

(陳情の趣旨)

本県の平均寿命は御承知のとおり全国では下位に属しており、高齢期の死亡要因を改善することが重要である。

高齢者の死亡要因の第 4 位となっているのが肺炎で、高齢者の肺炎は死亡につながる重篤な疾患とされ、肺炎球菌に罹患することで起こる病気である。

これらの感染症予防には肺炎球菌ワクチンの接種が有効とされることから、全国の自治体でワクチン接種のための対策が講じられており、ワクチン接種により肺炎感染後の重症化も予防することができ、費用対効果も各地で実証されている。

肺炎球菌ワクチンの接種は、1 回の接種で 5 年間有効とされているが、1 回の接種費用が 7000 円前後と高額なため、高齢者世帯にとっては負担が大きく、自治体の助成が不可欠であり、全国で助成をする自治体が拡大している。

本県では外ヶ浜町、東通村が既に助成を決定しており、青森市においても肺炎球菌ワクチン接種のための費用助成を実施するよう、下記事項について陳情する。

(陳情事項)

肺炎球菌ワクチン接種費用の一部を助成すること。

平成 21 年 9 月 1 日

陳 情 者 青森市松原 1 - 2 - 12
青森県保険医協会
会長 河原木 俊光

陳情第 7 号

乳幼児期のヒブワクチン接種の助成に関する陳情（不採択）

(陳情の趣旨)

本県の平均寿命は御承知のとおり全国では下位に属しており、厚生労働省の資料では、特に本県男性の平均寿命が短く、ワースト 30 位に 16 市町村が名を連ねる状況である。

平均寿命は、0 歳児が平均して何年生きられるのかをあらわした統計値であり、平均寿命アップには乳幼児期と高齢期の死亡要因を改善することが重要である。

乳幼児期の死亡要因の一つに細菌性髄膜炎が上げられている。細菌性髄膜炎には年間 1000 人の子どもたちが罹患し、そのうち約 5 % のとうい命が奪われ、25 % もの子どもがその後遺症と向き合っている。その原因菌の 60 % がヒブ (H i b) で敗血症、急性咽頭蓋炎も引き起こすとされている。

これらの感染症はワクチンで予防することができ、WHO では乳幼児への定期接種を推奨し、既に多

くの先進国で定期接種化され、子どもたちを感染から守っている。

世界からおくれること10年以上たち、ようやく日本でもヒブワクチンの接種がスタートしたが、接種費用は1回7000円前後で、計4回の接種が必要とされ、任意接種のため全額自己負担というのが現状のため、各地で助成が広がっている。

子どもたちの命や健康はお金にかえられないが、若い子育て世代にとっては大きな負担である。経済的な事情が子どもたちの命の格差を生み出すことになりかねない。ワクチン接種により感染後の重症化も予防できることから、費用対効果も各地で実証されている。

このようなことから青森市においても、ヒブワクチン接種のための費用助成を実施するよう、下記事項について陳情する。

(陳情事項)

乳幼児期のヒブワクチン接種費用の一部を助成すること。

平成21年9月1日

陳 情 者 青森市松原 1 - 2 - 12
青森県保険医協会
会長 河原木 俊光
